

遊びは仕事、仕事は遊び
遊びは仕事、仕事は遊び
仕事は遊び、遊びは仕事
仕事は遊び、遊びは仕事
遊びは遊び、遊びは遊び
遊びは遊び、遊びは遊び

大浦総合研究所

大浦勇三 著

続
ビジネス梁塵秘抄
（七）

目次

はじめに

第一部

「遊」

遊びをせんとや生れけん

第二部

「献」

仕事をせんとや生れけん

第三部

「学」

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄(りょうじんひしょう)」という歌謡集が編まれました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁(はり)の塵(ちり)も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七七七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

遊びをせんとや生まれけむ、戯れせんとや生まれけん、

遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ動がるれ。

岩波文庫版)

が有名です。

二〇一二年から二〇一四年の三年間、「ビジネス梁塵秘抄(一)〜(十)」全二〇巻(九〇〇ページ・二七〇〇文)を刊行させていただきました。この三年間で日本はもとより、世界の景色は大きく変わりました。日米欧を中心に、それまで国や地域を支えていたさまざまなインフラ・制度の劣化が散見されるようになっていきます。財政の悪化をはじめとして、改革のためのルール・規制が複雑化し、身動きがとれなくなってきたこと、国民一人ひとりが能動的・自覚的に課題を解決して自律するという意識が衰退し、国や周囲への依存意識が強くなっていること、などが指摘されています。

日本人は三・一一で、あり得ないことも起こること・見たくないものは観えないこと。すべては変わることを経験しました。一方、世界では二〇四五年問題が浮上、一台一〇〇〇ドル程度のPCの情報処理能力が全人類の能力を超えるとの予測も台頭しています。人工知能が人間の意思を介さずに仕事をする時代の予感。人工知能を敵ではなくパートナーとして連携しながら、人間の思考力・発想力を強靱化すべきという課題。人工知能は舗装道路では強力でも、石ころだらけの砂利道では人智の出番も多いはず。世界が合理的・効率的な方向に動き、その大きな流れに太刀打ちできない以上、やりたいこと・やれること・やるべきことの重なる領域を徐々に広げながら前進するしかありません。ドラッカーだけでなく、ピカソからアインシュタインまでを内包するのが二一世紀の経営学。固有の文化・価値観を生かしたイノベーションには組織文化風土の深耕がものをいいそうです。

本書は、「ビジネス梁塵秘抄」に続き、「遊(遊び)」「猷(仕事)」「学(学び)」に対す

東京・神楽坂にて

大浦 勇三



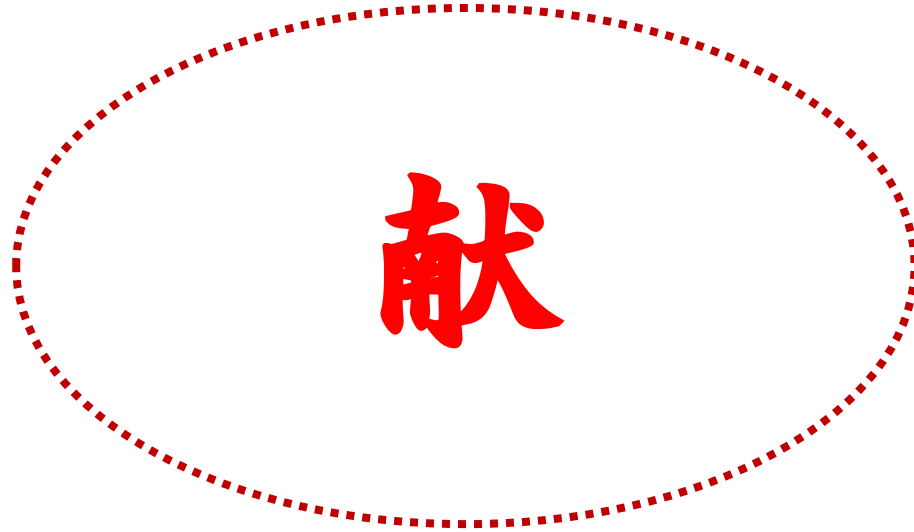
遊びをせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粹

●自動車やテレビは製造できても 原発の安全性には無防備
科学技術の在り方を見直す 研究開発で秘伝のタレを創る
生命における情報 あったものが無くなかったものが有る
動きこそが生命にとり本来の情報、と生物学者・福岡伸一

●情報伝達自体がいかに速くなっても
情報の認知・合理的判断こそ生命線
遭難する隊は食べ物を散らかす傾向
心の余裕が成否を分ける、と野口健

●テレビで話される話題 そのままではテーマにしない
独自のテーマを自分の味付けで調理し評価される必要
生きる気があるのかを試される 頼るのは知的好奇心
俗な欲望を持つことこそが大切だ、と作家・渡辺淳一



仕事をせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粹

●日本の目指す方向 知的基地のグローバル展開 創造力とサービス力の結合
安定成長フェーズで獲得した社会及び経済的技術 環境・都市経営のスキル
別途人口成熟化のフェーズに固有の課題 健康介護・環境・生涯教育・農業
指揮官が先頭の日本海軍 痛み・ペインと獲得・ゲイン、と作家・落合恵子

●大中小のプロジェクトを織り交せる 短期・中長期 改良型・革新型
イノベーションのペースに合わせる 予算を創るポートフォリオ構造
才能発掘にあらゆる手を使う インステイテュート・オブ・デザイン
役者がイメージできるものこそ顧客もイメージできる、と坂東玉三郎

●各分野のプロフェッショナルとの関係を深める Know・Who
どの組織も イノベータータイプ・ナレッジマネジメントを通じて実現
地域運動会段階からオリリンピックレベルまで高めていくことが必要
生産性に関係なく 誰でも夢中になるものが必要、と作家・村上龍



学びをせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粋

● ラーメンを売るな 食文化を売れ、と安藤百福
必要であれば土下座もする だってタダなもの
恐ろしいのに美しい 人間の行きつく先は悲惨
だから今を楽しめ、とはフランス・ベーコン

● 前の打席で打たれた球から入る、と古田敦也
決断は勇気と臆病さ 努力できることが才能
笑い声は時代を超え 想像力は歳をとらない
夢は永遠のものだ、とウォルト・ディズニー

● 敗戦直後なら 日本というだけで異端 それだけで世界の関心を集められた
今は 個という自分の存在意義を強く意識 うまく打ち出さないと勝てない
歴史や文化の勉強 自分の強みに磨きをかけ個人のイノベーションを起こす
日本人には世界に先駆けて様々な問題に取り組むべき宿命がある、と森英恵

大浦勇三（おおoura ゆうぞう）

oura@office.emaill.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.ne.jp/asahi/oura/oura-research-institute>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。

主な著書には、

- ・「ビジネス梁塵秘抄（一）～（十）」（全十巻）（大浦総合研究所）
 - ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
 - ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
 - ・「よいコンサルタントの見分け方、かかり方」（清話会）
 - ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
 - ・「図解ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか
- その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

続・ビジネス梁塵秘抄（七）「抜粋」 著者 大浦勇三

二〇一八年六月 初版 第一刷発行

大浦総合研究所

〒二七〇・〇〇三四 松戸市新松戸七・五四二

◎大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。